17解釈と鑑賞

１　次の短歌を読んで、下の問いに答えよ。

Ａ のちひさき（ａ　　　）のかたちして

　 散るなり夕日のに

Ｂ 春さむき梅のをゆく（ｂ　　　）の

　 たかくあゆみて枝をくぐらず 中村

Ｃ （ｃ　　　）はしからずや空の青

　 海のあをにも染まずただよふ 若山

Ｄ＊のにありて（ｄ　　　）の

　 さへづる春となりにけるかも

Ｅ （ｅ　　　）ののそよろに来る秋は

　まなこを閉ぢてひ見るべし

問１（　）ａ～ｅに入る適当な動物名を次から選び、記号を書き入れよ。

ア＊　　イ　鳥　　ウ　　　エ＊　　オ

問２ が使われている短歌を記号で答えよ。

（　　　）

問３ 途中に意味上の切れ目（句切れ）がある短歌を記号で答えよ。

（　　　）（　　　）

問４ 倒置法が使われている短歌を記号で答えよ。

（　　　）

問５ Ｅの短歌と同じ季節に詠まれたものをＡ～Ｄから選び、記号で答えよ。

（　　　）

＊語注

＊高槻…高く茂ったの木。

＊馬追虫…スィーッチョンと澄んだ声で鳴く虫。触角は長い。

＊頰白…背面が赤褐色で頰に白い線がある小鳥。ほおじろ。

２　次の俳句とその鑑賞文を読んで、下の問いに答えよ。

の浮きて流れず

①冬の朝焼け夕焼けは、夏はもとより、春秋ともちがって、しく、そして

②に消える。しかし、淡い茜空であっても、その下に白一色の雪嶺を見るなら、その印象は格別。この句の場合は、おそらく朝茜でしょう。暁雲にほっと浮かんだ雪嶺にこころ漂うばかり。だが、目をこらすと、寒気ななかに雪山の③威は微動だもしない。充実した気力をやさしく表現した作。

（『俳句の楽しみ』による）

問１　冒頭の句の句切れとして、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　句切れなし　　イ　初句切れ　　ウ　二句切れ

問２　――線部①について、「冬」の句と解したことばを抜き出して答えよ。

〔　　　　　〕

問３　――線部②の最も適当な意味を次から選び、記号を○で囲め。

ア　必ず　　イ　すぐに　　ウ　黒ずんで

問４　――線部③はどの部分の解説か。句中から六字で抜き出して答えよ。

〔　　 　　　　〕

【解答】

１　問１　ａ＝イ　ｂ＝オ　ｃ＝ウ　ｄ＝エ　ｅ＝ア

　　問２　Ｅ

　　問３　Ａ・Ｃ

　　問４　Ａ

　　問５　Ａ

２　問１　ウ

　　問２　雪嶺

　　問３　イ

　　問４　浮きて流れず

ポイント

１　問１　短歌は五七五七七が基本。音数をまず確かめよう。

問２　「序詞」はある語を引き出すために創作する飾りことば。「馬追虫の髭の」までが「そよろに」を引き出す「序詞」。

問３　「句切れ」は散文であれば句点が入る、意味上の切れ目。Ａ「銀杏散るなり」、Ｃ「哀しからずや」でそれぞれ切れる。

問４　「倒置法」は強調のために語順を逆にする技法。「夕日の岡に銀杏散るなり」が普通の語順。

問５　Ｅの短歌は「秋」の歌。同じ秋の歌は「銀杏散る」のＡ。